



国立大学法人 福島大学
共生システム理工学類

VOL. 25
2017.9

後援会だより

学類の改革について

福島大学共生システム理工学類長 二見 亮弘

福島大学では2019年度の食農学類創設に伴う改革の準備を進めています。共生システム理工学類でも、創設以来13年にわたる運営の中で顕在化してきた諸課題への対応として、教育改革を検討しています。今回は、この改革の方針についてご紹介したいと思います。

本学類の教育目標は「従来の理工学的知識だけでは解決できない、現実の複合的な問題に対処できる人材を養成すること」と要約できますが、実社会において複合的で難しい問題に対処する仕事は、複数の専門家が協力して行うのが普通です。このとき重要なのは、個々の専門家が自分の専門分野についての確かな知識や問題解決力だけでなく、異分野の専門家と協力するために必要な知識、経験、姿勢、対話力なども持つべきだということです。しかし何でも完璧にこなせる万能な人間はいませんから、基本となる専門力の深さと広さのバランスが重要になってきます。

このような視点に立ち、本学類の教育課程を次のように変更したいと考えています。まず1年次では、全学的基盤教育の科目に加えて、学群共通科目、学類基礎科

目を履修し、人文社会科学から共生の科学論までを含む多様な科目を幅広く学びます。2年次からは細かいコースに分かれて、特定の学問分野で基礎・

専門科目と境界領域科目を学びます。専門教育の深さはコース毎の必修・選択必修科目の設定によって調節されます。またここで、本学類の教員専門分野の多様性が有効に機能します。3年次後期からは、研究室に配属されて行う卒業研究を通して、実践的問題解決の経験を積みます。以上の構成により、学生は卒業時に、どんな分野の基礎と専門を学び、どんな内容の実践的研究を行ったのかを明確に理解し、説明できるようになると期待されます。

後援会の皆様には、本学類の教育をさらに充実したものにしていくために、益々のご理解とご支援をよろしくお願い申し上げます。



「保護者のための就職セミナー」開催のお知らせ

平成29年10月28日(土) 13時～14時30分 福島大学共通講義棟L-1にて

「大学生の就職情報と家族のかかわり方」と題し、キャリア研究部門の五十嵐敦教授が講演いたします。詳しくは別紙の参加申込書をご覧ください。

参加
無料

この夏の集中豪雨により被害を受けられた地域の皆さまに謹んでお見舞い申し上げます。皆さまの一日も早い復旧をお祈り申し上げます。

共生システム理工学類後援会 役員一同

一年生紹介

Aグループ

中村 勝一

Aグループは、男性17名、女性5名の22名で、大変個性豊かです。半数強が県外出身で、はじめての一人暮らしや遠距離通学で大変だと思いますが、徐々に落ち着いてきました。前期は、各種オリエンテーションの他、3年後の就職・進学に向けて、福島大学と周辺大学との違いや何を意識して学べば良いかを、自分達で少しずつ調べ始めています。自分のやりたいことを模索しながら、大学生生活を思いっきり楽しんで欲しいと思います。



Bグループ

島田 邦雄

Bグループは、男性17名、女性5名の合計22名で構成されています。

勉学に励む者、部活やサークル活動に打ち込む者など、様々な個性を持った学生達が集まっています。前期の「教養演習Ⅰ」という授業では、図書館利用や情報検索、また、大学生活などのガイダンス等を通して大学での学習活動におけるスキルの習得に励む他、他大学ではあまり見られない唯一の教育として、道徳の授業も行っています。後期の「教養演習Ⅱ」では、研究等におけるスキルとして、レポートや発表等の演習や、就活や研究などの紹介も行う予定であり、大学での勉強が有意義なものとなることを願っております。

Cグループ

猪俣 慎二

私たちのクラスは、福島を始め近隣5県の他、秋田、岩手、富山、静岡から来たものを含む総勢22名です。個性的な人たち、といえは当たり前障りのない表現となりましょうか。そのなかにも、互いになれてないためか、どこか淋しさも感じられる仲間でもあります。将来の夢もまだまだ漠然としている中、はっきりとデザイナーや教員になりたいと強く思っているものもいます。今後の成長に乞うご期待!



一年生紹介

Dグループ

藤本 勝成

Dクラスは男子18名、女子4名の22名の構成です。半数近くの学生が、福島市内の高校を卒業しています。入学当初、初々しかった学生たちも、前期の講義が終了する頃には、すっかり、大学生っぽい雰囲気醸しだすようになりました。もう、休日の高校生には見えません。一部、高校生の時と比べ、早起きが苦手になってきている学生もいるようですが、今の所(?)、毎日、元気に大学に来ているようなので、ご安心ください。やりたいことも、人間関係も、自分で選べる貴重な大学生の期間を謳歌してもらいたいと思っています。



Eグループ

中村 和正

Eクラスは男子17名、女子4名、計21名で、半数以上が福島県外の出身です。入学当初は緊張していた面々が、5月下旬のクラスごとの演習に移った頃にはみんな打ち解け大学に慣れた様子で、クラスの目標である「明るく元気な学生!」「大学生活に慣れよう!」を早速クリアしていました。これから、それぞれが興味をもつ分野や将来のキャリアについて調べ、発表する実践的な演習を行う予定です。大学生活の4年間で、どのような大人に成長していくのかとても楽しみです。

Fグループ

黒沢 高秀

最初の顔合わせでは皆おとなしく、真面目な印象でしたが、最近は慣れてだんだんとそれぞれの個性を出すようになってきた気がします。前期の教養演習では学生生活や将来で各自興味があること(福島大の歴史、各専攻の特徴、資格、教員採用、技術系公務員、就職活動)について班を作って調べ、発表しました。こちらが思ったよりよく調べてきて、初めて作ると言っていた人もいたパワーポイントも、終わってみればそれなりのレベルのものに仕上げました。人前でのプレゼンも難なくこなしていました。今後の成長が楽しみです。



一年生紹介

Gグループ

三浦 一之

Gグループは中国からの留学生一人を含む男性17名、女性4名の計21名で構成されています。前期の演習Iでは、数名ずつのグループに分かれてそれぞれの関心事について情報収集を行い、資料にまとめて発表する、といった活動を行いました。最初はおとなしい学生が多い印象でしたが、グループ活動やディスカッションを通して次第に打ち解けてきたようです。

後期の演習IIでは、各個人ごとに興味のあるテーマを設定して発表をおこなってもらう予定です。各自個性的なテーマを設定して調べてくれるようですので、どのような発表が行われるか楽しみにしています。



Hグループ

中山 明

21名からなるHクラスの担当となりました中山明です。ガイダンスの授業以外は学習することに。「グラフ理論への道」(ビッグス、その他著、一松信、その他訳、地人書館、1986)の中から多数決で「ケーニヒスベルグの橋の問題」に関するオイラーの論文を選択。私が解説しながらも幾つかの問を学生さんの宿題に。提出された宿題の中にはかなり本格的な証明もあり驚きました。全般的に皆さんと楽しく過ごせましたが、食事会を実現できなかったのが心残りです。後期に実施したいと考えています。



Iグループ

柴崎 直明

Iクラスは21名(女子4名、男子17名)からなる元気なクラスです。この中には、中国からの留学生が1名います。前期の教養演習Iでは、クラス独自で学内散歩や研究室訪問を行いました。研究室訪問では、2~3人ごとにグループを作り、興味や関心のある研究室を自分たちで選び、グループで訪問しました。その結果を、パワーポイント等を使って研究室訪問発表会で報告しました。夏休み中は、各自が選んだ仮テーマを調べることにしています。



学生生活支援便り

共生システム理工学類 学生生活委員会

紙面を拝借いたしまして、後援会の皆さまに理工学類の学生の動向、学生生活上の注意などをお知らせしております。

【新入生へのガイダンス】

1年生の必修科目に、「教養演習」があります。この科目は、ホームルームのような雰囲気を持っています。新入生などが9つのグループに分かれて、主に、グループアドバイザー(クラス担任)と活動します。学生生活委員会では、この科目の授業時間の中で、様々なガイダンスをしています。例えば、福島警察署、福島市消費生活センターの方々か

ら、日常生活に潜む犯罪やお金のトラブルなどの危険、交友関係から発展する様々なトラブルの悩みについてご指導をいただきました。また、学内の専門家によるメンタルヘルスの講話、図書館利用やレポート作成や将来の研究活動に必要な情報検索の指導などもありました。新入生のみなさんの大学生活に役立つものでした。

平成28年度
成績優秀者表彰

Congratulations!

1年生
(現在2年生)

半澤 広夢
松下 滉季
吉津 愛
松本 穂香
澤内 亮佑
平山 将汰
武藤 瑛介
熊田 大雅
門井 健太
近藤 一樹

2年生
(現在3年生)

佐々木望有
伊藤 光耶
藁谷 朱里
小池 淳平
立花 隼一
本田 理樹
榎戸 智輝
岡本 紗季
石野 俊和
上原 聡希

3年生
(現在4年生)

佐藤 直也
元村 隼登
佐々木滉平
高橋 里沙
川村 由宇
紺野 大地
有馬 佑哉
遠藤 大介
赤塚こうみ
高尾 将希

4年生
(平成28年度学類卒業生)

佐藤 弘基
大泉健太郎
柳田 知美
貝沼 修弥
田辺 将大
櫻井 貴将
霜山 翼
高澤 啓太
丹野花奈子
井上 聖也

【学生交流会と学業成績優秀者の表彰】

例年5月に、学生たち共生システム理工学類自治会主催の交流会が開催されます。今年も5月24日に開催され、前年度の上位の学業成績優秀者が学年ごとに表彰されました。二見学類長から賞状、共生システム理工学類後援会

から副賞(図書カード)が授与されました。また、立食パーティ、ゲームなども行われ、学年を越えた学生間の交流、教員との交流が深まりました。

Campus Life Gallery



5月24日
成績優秀者表彰



表彰後学生交流会



8月6日 オープンキャンパス





平成28年度の卒業生・修了生の進路状況と 平成29年度の就職活動状況等について



共生システム理工学類 就職支援委員会 委員長

平成28年度の福島大学の進路状況は、売り手市場の影響もあり、前年度より1.1ポイント就職率が向上し、理工学類として過去最高の就職率96.7%となりました。以下、共生システム理工学類卒業生および大学院修了生の進路状況と今年度の就職活動状況等についてご報告致します。

1. 卒業生・修了生の進路状況

過去3年間の理工学類卒業生の進路状況を表1に示します。業種としては、製造業、情報通信業が多く、次いで卸・小売業、サービス業、公務員といった傾向が続いています。また、中高教員もコンスタントに一定の割合を占めています。公務員については、やや減少傾向にあり、逆に大学院進学者数が増加傾向にあるようです。教員については、福島県からも理数教員の担い手として期待されている面もありま

すので、今後大学院修了生を理数教員として輩出することも検討課題かもしれません。

都道府県別就職先に関しては、福島県内就職が前年度より10ポイント減少し42.2%、東京、埼玉、神奈川、千葉が前年度より6ポイント上昇し25.1%でした。これも売り手市場を反映した結果かもしれません。

一方で、大学院進学者が前年度より7名増加し47名(うち他大学や他研究科5名)となったものの、定員60名に満たない状況が続いています。理工系の場合、高度な専門的知識を必要とするケースも多いため、進学という選択肢も念頭において進路を決定してほしいと思います。大学院修了生の就職先は、優良企業(名前が良く知れている企業)への就職がほとんどとなっています。また、職種も研究職や技術職として採用される場合がほとんどです。生涯年収や昇進も学卒に比べて良いという調査報告もあるようです。ま

表1 理工学類生の進路状況(単位:人)

過去3年の進路状況	平成26年度	平成27年度	平成28年度		
卒業生	169	161	172		
就職者(a)	108	108	116		
業種別	農・漁・鉱業	0			
	建設業	1	2	5	
	製造業	19	20	22	
	電気・ガス・水道業	2	1	1	
	情報通信業	19	20	21	
	運輸業、郵便業	2	3	5	
	卸・小売業	9	8	10	
	金融業	3	2	3	
	保険業	1	1	2	
	就業者内訳	不動産業、物品賃貸業	3	3	2
		宿泊業、飲食サービス業	2		
		教育・学習支援業		2	
		医療、福祉	1	1	1
		複合サービス業	1	3	3
		サービス業	6	5	10
		国家公務員	7	5	5
		地方公務員	26	23	19
教員		6	9	6	
自営業				1	
進学者等	44	40	47		
その他	17	13	9		
その他内訳	未定者(b)	5	5	4	
	公務員等希望者	4	8	4	
	有職者				
	その他	8		1	
就職率	95.6%	95.6%	96.7%		

就職率=就職者(a)/就職希望者【就職者(a)+未定者(b)】

表2 大学院博士前期課程修了者の進路状況(単位:人)

過去3年の進路状況	平成26年度	平成27年度	平成28年度		
修了者	45	24	37		
就職者(a)	37	15	33		
業種別	農・漁・鉱業	1			
	建設業	2		1	
	製造業	14	7	14	
	電気・ガス・水道業				
	情報通信業	4	1	2	
	運輸業、郵便業	3			
	卸・小売業	3		2	
	金融業			1	
	保険業				
	就業者内訳	不動産業、物品賃貸業			
		宿泊業、飲食サービス業			
		教育・学習支援業	1		
		医療、福祉			
		複合サービス業		1	
		サービス業	6	4	4
		国家公務員			
		地方公務員	1	1	3
教員		2	1	6	
自営業					
進学者等	1	4	2		
その他	7	5	2		
その他内訳	未定者(b)	1	2		
	公務員等希望者	3		1	
	有職者	2	2		
	その他	1	1	1	
就職率	97.4%	88.2%	100.0%		

就職率=就職者(a)/就職希望者【就職者(a)+未定者(b)】

た、本学では大学院生に対してティーチング・アシスタント(TA)や奨学金(民間財団給付型を含む)など経済的なサポートもありますので、保護者の方々にもご理解とご協力を賜れば幸いです。

大学院博士前期課程修了者の進路状況を表2に示します。平成28年度の就職率は前年度より12ポイント上昇し、過去最高となりました。この結果もやはり売り手市場の影響と考えられます。引き続き高い就職率を維持できるように、今後の就職支援にも引き続き力を入れていきたいと考えています。

2. 平成29年度の就職活動状況

平成29年度の採用選考活動は、昨年度と同様6月から開始されており。学生は3月初旬から説明会に参加し、情報収集やエントリーシート作成など、就職活動が本格化しました。本年度は、昨年度に増して企業の採用活動が活発化、いわゆる売り手市場であったため、採用選考活動解禁になる6月から早期に内定が出るケースが多かったように感じられました。いずれにしても、3~6月中については卒業研究はほぼできない状態となっていますが、致し方ないことかもしれません。福島大学としては、企業の採用担当者に対して、必要な配慮を求める依頼を行ったり、就職ガイダンスで学生に説明したりするなどの対応を行っています。また、就職支援課には前年度に増して、求人との挨拶に大学まで訪問する企業が多かったようです。

また、大学院修了生の多くが、技術職や研究職として内定しているケースも年々増えており、本学大学院修了生が社会で評価され始め、本学理工研究科のポテンシャルが広く認知され始めたものと推察されます。本学卒業・修了生が将来この国の技術を支え、我が国を担う中核人材として送り出せるよう教職員一丸となって取り組む所存です。

3. COC+事業(ふくしまの未来を担う地域循環型人材育成事業)について

福島大学では、平成25年度から、文部科学省「地(知)の拠点整備事業(COC)」として、原子力災害からの地域再生をめざす「ふくしま未来学」を展開してきましたが、平成27年度に文部科学省の「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」の採択を受け、新たなプロジェクト「ふくしまの未来を担う地域循環型人材育成の展開」がスタートしました。COC+事業は、「未来を創造できる人材の育成」と「若者の地元定着」に向けた取り組みで、福島大学だけでなく、県内の高等教育機関(4校)、福島県、産業界(14機関)が産学官で連携・協働して取り組みを推進しています。具体的な目標として、学生の地元就職率を5年間で10%向上させることを掲げています。

COC+事業では、学生が1年次からステップをふんでインターンシップ(就業体験)を経験できるように、キャリア創造科目と連動するプログラムを開発しています。平成28年度は、初めて1年生を対象に「短期インターン」として「ワンデー・インターンシップ・バスツアー」を実施しました。県北・県中地域の22事業所にご協力いただき、1年生約540人が参加しました。平成29年度も32事業所に対して約640人の新入生が参加します。入学してまだ日の浅い1年生にとって、普段なかなか見ることができない仕事の現場を直接目で見て触れて体験することは、働くことの具体的なイメージややりがいについて新たな気づきや発見、驚き等がある貴重な機会となっています。また、平成29年度は2年生以上を主な対象に、1~2週間型の「中期インターン」を、福島県が主催する「Fターンインターンシップ」と連携しながら進めています。さらに次年度以降は次のステップとして1ヶ月以上の「長期インターン」プログラムの開発を目指しています。

インターンシップは、地元企業を知る機会としてのみならず、働くことのイメージを具体的なものにする機会として、また社会人マナーの習得の機会として、さまざまな効果が期待されます。さらに、学生が自分の意思で進路を選択する力を養うことへも繋がるものと考えます。COC+事業では、インターンシップを始めとするいろいろな事業を展開しながら、若者の地元定着を促進することにより地方創生に貢献してまいりたいと思っています。

平成28年度 共生システム理工学類卒業者の主な就職先

大和ハウス工業(株)	前田道路(株)	(株)三恵クリエス	(株)NaITO
三菱電機ビルテクノサービス(株)		(株)ダイユーエイト	
成友興業(株)	御園建設(株)	ネッツトヨタ郡山(株)	
福島キャンボン(株)	中外化成(株)	生活協同組合コープふくしま	
会津オリンパス(株)	日新製薬(株)	(株)プリマベール	(株)秋田銀行
(株)川金ダイカスト工業	由利工業(株)	(株)北日本銀行	(株)新生銀行
アイリスオーヤマ(株)	ニプロ(株)	第一生命保険(株)	
古川電気工業(株)	タカ食品工業(株)	(株)TK・ハウジングセンター	
(株)パナソニックシステムネットワークス開発研究所		(株)テクノプロ	
(株)新潟トランス	(株)富士通テン	ヤマトインターナショナル(株)	
(株)浅野	(株)タナベ	(株)かわでん	国土防災技術(株)
ソニーセミコンダクタマニュファクチャリング(株)		寿泉堂総合病院	
東京電力(株)	東邦情報システム(株)	ふくしま未来農業協同組合	
コグニビジョン(株)	ハイテックシステム(株)	足利農業協同組合	
月電ソフトウェア(株)	(株)エフコム	アース環境サービス(株)	
(株)アテネコンピュータシステム		(株)アルトナー	(株)アルプス技研
SCSKニアシオシステムズ(株)		(株)プランニングA	
NHK	(株)NTTデータ・アイ	公務員	
東日本電信電話(NTT東日本)(株)		気象庁仙台管区気象台	
エス・ビー・エス(株)	(株)CKF	総務省 福島労働局	
東京コンピュータサービス(株)		愛知労働局 名古屋国税局	
(株)NS・コンピュータサービス		福島県 福島県(警察)	
東日本旅客鉄道(JR東日本)(株)		須賀川市 三春町 矢吹町	
東武エンジニアリング(株)		会津美里町 川俣町 大河原町	
西日本旅客鉄道(JR西日本)(株)		女川町 茨城県(警察) 栃木県	
ケイヒン海運(株)	リコージャパン(株)	益子町 柏市消防局	
福島建機(株)	アットホーム(株)	公立学校教員	
(株)システムエグゼ	アドレス(株)	〔福島県 栃木県 神奈川県〕	

平成28年度
共生システム理工学類後援会
会計決算報告

(単位円)

収入内訳		本年度予算額	決算額	差額	備考
繰越	金	8,652,608	8,652,608	0	学生活動助成(36万円×6年)、福利厚生費(18万円×6年)
会費	費	3,600,000	3,650,000	50,000	入学者(編入学生を含む)
雑収入	入	0	141	141	利息
収入合計		12,252,608	12,302,749	50,141	

(単位円)

支出内訳		本年度予算額	決算額	差額	備考
事務局運営費	総会費	10,000	9,763	237	資料印刷費等
	役員会費	130,000	81,050	48,950	理事会会場費、交通費、資料費
	人件費	600,000	600,000	0	事務手当
	事務費	40,000	40,119	△119	通信費、消耗品費、事務局備品等
	小計	780,000	730,932	49,068	
事業費	学生活動助成費	600,000	581,370	18,630	学生の課外活動支援費、表彰制度
	就職指導対策費	300,000	338,590	△38,590	企業講演会、企業交流会、親のための就職セミナー補助
	後援会報費	400,000	311,252	88,748	会報年2回発行 印刷費・発送費
	福利厚生費	720,000	481,500	238,500	アドバイザーグループ助成 研究室配属学生補助:1,000*180*4
	学類運営助成費	100,000	94,000	6,000	理工学学部会長費他学類の対外交渉・応接に要する経費
	教育研究助成費	700,000	560,070	139,930	実地指導・実習指導助成、資格試験受験助成:3,000*100、学会参加費、研究交流会費、海外演習助成:30万
	小計	2,820,000	2,366,782	453,218	
予備費	費	0	68,456	△68,456	学籍異動に伴う会費返還費
支出合計		3,600,000	3,166,170	433,830	

収入合計-支出合計=9,136,579円は平成29年度へ繰越

平成29年度
共生システム理工学類後援会
会計予算

(単位円)

収入内訳		本年度予算額	H28年度予算額	比較増減額	備考
繰越	金	9,136,579	8,652,608	483,971	学生活動助成(36万円×6年)、福利厚生費(18万円×6年)、通信費(3万4百円×6年)等を含む
会費	費	3,600,000	3,600,000	0	5,000*180名*4学年
雑収入	入	0	0	0	預金利息等
収入合計		12,736,579	12,252,608	483,971	

(単位円)

支出内訳		本年度予算額	H28年度予算額	比較増減額	備考
事務局運営費	総会費	10,000	10,000	0	資料印刷費等
	役員会費	130,000	130,000	0	理事会会場費、交通費、資料費
	人件費	600,000	600,000	0	事務職員給与
	事務費	40,000	40,000	0	通信費、消耗品費、事務局備品等
	小計	780,000	780,000	0	
事業費	学生活動助成費	600,000	600,000	0	学生の課外活動支援費、表彰制度:60人程度
	就職指導対策費	300,000	300,000	0	企業講演会、企業交流会、親のための就職セミナー補助
	後援会報費	400,000	400,000	0	会報年2回発行 発送費を含む
	福利厚生費	720,000	720,000	0	教養演習グループ・研究室配属学生助成:1,000円*180名*4年
	学類運営助成費	100,000	100,000	0	学類の対外交渉・応接に要する経費
	教育研究助成費	700,000	700,000	0	実地指導・実習指導助成、資格試験受験助成:3,000円*150人、学会参加費、研究交流会費、海外演習助成
	小計	2,820,000	2,820,000	0	
支出合計	3,600,000	3,600,000	0		
予備費(繰越金)	費	9,136,579			学籍異動にともなう会費返還費 学生活動助成:36万円*(1年+2年+3年) 福利厚生費:18万円*(1年+2年+3年) 通信費:3万4百円*(1年+2年+3年)
合計		12,736,579			

平成29年度 福島大学共生システム理工学類 後援会役員

会長 鈴木 忠継 / 副会長 野地 英男 / 副会長 細川 隆弘
 理事 遊佐 正広 / 理事 佐藤 由美 / 理事 藪内 敬子 / 理事 今野亜紀子
 理事 佐藤 清春 / 理事 野田 健 / 理事 押切竜一郎 / 理事 小針 宏昭

福大祭へお越しく下さい!

第53回 福大祭 本祭(一般公開)

- 場所:福島大学
 - 日時:平成29年10月28日(土)・29日(日)
- ステージ発表・模擬店・子ども向け企画・学外展示・お笑いステージなどを企画しています。



◆環境放射能研究所本棟が平成29年3月に竣工いたしました。

■ご意見・ご要望は共生システム理工学類後援会 まで

事務局:〒960-1296 福島市金谷川1 福島大学理工学群共生システム理工学類内 TEL&FAX 024-548-8176

学類のHPで様々な教育・研究活動をご覧ください。 <http://www.sss.fukushima-u.ac.jp/>